



感染症週報



小笠原での流行状況

第51週（12月15日から12月21日まで）

父島 感染性胃腸炎、インフルエンザ、COVID-19の報告がありました。

母島 特別な感染症の報告はありませんでした。

※ 5例以上発生時に実数報告としています

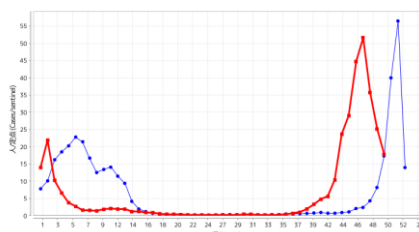
東京都全体での流行状況

第50週（12月8日～12月14日）

【警報・注意報】

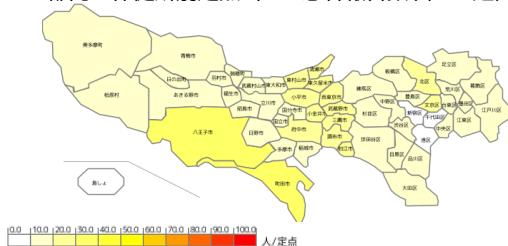
・インフルエンザ **警報レベル**
（定点患者報告数 17.80）

東京都内における定点当たり患者報告数の年別推移



(C)2002-2025 Tokyo Metropolitan Institute of Public Health

都内の保健所別定点当たり患者報告数(第50週)



【ピックアップ】

- ・感染性胃腸炎
（定点患者報告数 7.30 ▲）
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
（定点患者報告数 2.58 ▲）

感染症メモ

参考 厚生労働省、国立感染症研究所 東京都健康安全研究センター 東京都感染症マニュアル

レプトスピラ症は、ネズミなどのげっ歯類が保菌する細菌による人獣共通感染症で、日本では年間おおむね20～50例程度が報告されています。国内では温暖で降雨量の多い地域での発生が多く、特に沖縄県での報告が目立ちます。小笠原も、ネズミの生息や降雨後の水たまりなど感染が起こり得る環境条件は存在しており、注意が必要な地域と考えられます。病原性レプトスピラは、ネズミの尿で汚染された水や土に触れることで、皮膚の小さな傷や粘膜から感染します。大雨や浸水後は病原体が環境中に広がりやすく、リスクが高まるとされています。また、発熱や頭痛、筋肉痛など初期症状は風邪やインフルエンザに似ており、気づかれにくいこともあります。なお、発生数は少ないものの、東京都を含む都市部でも感染例が報告されており、生活環境や作業内容によっては注意が必要です。



ネズミが媒介する感染症

レプトスピラ

レプトスピラ症は、ネズミなどのげっ歯類が保菌する病原性レプトスピラによる人獣共通感染症です。げっ歯類の尿で汚染された水や泥が、傷のある皮膚や粘膜に触れると感染します。



レプトスピラの名前はギリシャ語の「細い（λεπτός）」「らせん（σπείρα）」が由来。梅毒の原因菌とは「親戚」です。

症状

潜伏期間は3～14日程度。
初期症状は38～40℃の発熱、悪寒、頭痛、筋痛、結膜充血など。インフルエンザの症状に似ています。ふくらはぎの筋痛が比較的特徴的です。風邪症状のみの軽症型から、黄疸・出血・腎不全を伴う重症型まで様々な臨床症状があります。早期に診断し、適切な抗菌薬治療を行えば回復が期待できます。

感染経路

病原性レプトスピラはネズミなどの保菌動物の尿に含まれます。尿で汚染された水や土に触れた際、皮膚の小さな傷や目・口などの粘膜から体内に侵入して感染します。

注意が必要な場面

大雨や浸水後は、ネズミの尿が水や土に広がり、感染リスクが高まります。また、屋内でもネズミが多く生息する場所では注意が必要です。

予防のポイント

- ・ネズミに触れた可能性のある水や土、物には素手では触らないよう注意する
- ・屋外作業時は手袋・長靴を着用し、傷のある手足での作業は避ける
- ・作業後は石けんでしっかり手を洗う

僕らと絡む時
手足は
要チェック



習慣にしよう！

感染予防の基本は手洗い

東京都島しょ保健所小笠原出張所